

学習内容と到達目標

☞ 昔の人はどんな生活をしていたのか。自分で調べたことを報告する。

指導のポイント

1. INTRODUCTION 第5課の復習。この『J.BRIDGE』は単なる語学の教科書ではなく、日本語を学習する中で日本に関する様々な事柄(たとえば歴史)も学ぶことを目的とした教科書なので、**①**では受身形がうまく使えるかどうかだけでなく、それぞれの文化財がどのようなものであったかを覚えているかどうかも重要。また、それを覚えていないと、**②**も解答できない。

2. SPEAKING 絵を見ただけではイメージがわからず、話をしようにもできないという場合は、やはり映像を使うのが一番(詳細は「授業で使えるリソース」に)。

3. READING **①**で質問に答えた後、**②**で本文を読ませ、質問の答えを言わせる(**①**の質問にある程度の内容なら、最初にまずCDを聞かせてもよい)。ただし、質問2については「幕府が道や川にゴミを捨てることを禁止していた」とあるだけで、「ならば、具体的にどうしていたか」は述べていないので、教師が補足すること。

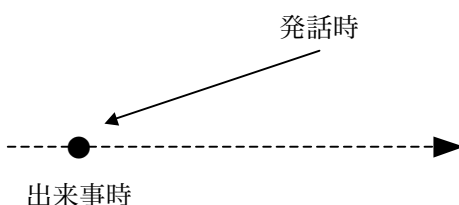
参考・補足

- ①当時世界三大都市と呼ばれていたのは「江戸」、「ロンドン」、「北京」。
- ②江戸時代のごみ処理：江戸時代にはゴミを回収する業者があり、人々が近くの船着き場までゴミを運んでいくと、業者がそれを回収し、現在の江東区周辺に設けられた処分場まで船で運ばれていた。

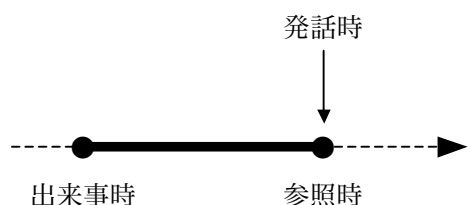
4. FOCUS **①**の「～ようだ」には意味のよく似た「～らしい」があるが、この2つには、前者が話者が直接見たり聞いたりした情報に基づく推量であるのに対し、後者は間接的に得た情報に基づく推量であるという違いがある。ゆえに、ここでは全ての練習を「人がたくさんいる」や「きのうと同じ服を来ている」などの推量の根拠となる材料とともに提示している。

②のテンス・アスペクトは中級や上級の学習者でもなかなか難しい問題なので、丁寧に扱うこと。特に「結果の状態」の過去時制は要注意。(文法論的には諸説あるが)「財布が落ちた」のような単純過去は発話時と出来事時の2つの時間の関係で捉えられるのに対し、「財布が落ちている」や「財布が落ちていた」のような「結果の状態」ではその事実いつ知ったかという第3の視点(参照時)が必要になる。

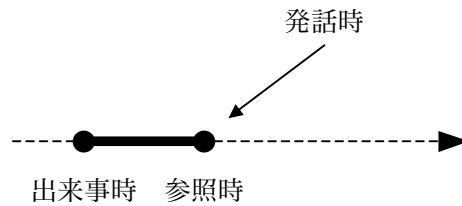
①財布が落ちた



②財布が落ちている



③財布が落ちていた



※発話時は全て現在。出来事が起きたのは全て過去。問題はその出来事をいつ知ったか。出来事時と同じ時点なら単純過去、発話時と同じなら「結果の状態（現在）」、出来事時と発話時の間なら「結果の状態（過去）」。

③と④では、「寺子屋というのは昔の学校ということです」や「『目と鼻の先』というのはとても近いことです」のような間違いが時折（学習者の発話や作文に）見受けられるので、2つの文型の違いに注意させる。

5. READING

「江戸町民の生活」に比べると語彙も難しいので、読んで内容を理解できれば十分。

6. PAIR WORK

①はペアまたはグループで考えさせる。②は宿題にし、調べてきたことを次の授業で発表させる。PPTを使い、写真や資料を提示しながら発表させると、他の国の学生も参加しやすい。

7. SPEAKING

これも [6.PAIR WORK] の②と同様、宿題にして自宅で資料を探させ、次の授業で発表させる。最初にも述べたように、この教科書では、日本語を学習する中で日本に関する様々な事柄（たとえば歴史）も学ぶことを目的としているので、その場で思いついたことや以前から知っていることだけを話させても、勉強にならない。

8. COMPOSITION

[7.SPAEKING] で話した内容を文章にまとめさせる。

授業で使えるリソース

- ☞ ホームページの「授業で使える映画・ドラマ」で紹介したドラマ「仁 JIN」の第一話（後半）に江戸の人々の生活シーンがいろいろ出てくるので、それを見せるとイメージも膨らみ、話が弾む。一例を挙げると、第1話の後半で、恭太郎を助けた仁に翌朝出された食事（ご飯大盛り）や、謎の男（実は坂本龍馬）と出会った直後に江戸の町に紛れ込んだ仁が見た活気溢れる町の様子。喜一の母親を見舞うために訪れた長屋の内側（第2話）などが参考になる。